

③ 保護者から大声を出されたり居留守を使われたりして接点をもてない。

授業が始まってもし言い争いをやめない二人の生徒がいた。担任は双方から事情を聞き、指導して帰宅させた。双方の家庭にも電話を入れ、事情と指導内容を伝えて協力を求めた。

翌日、一方の子供が欠席した。担任が電話をすると、保護者が「うちの子が一方向的に悪者扱いされた。先生に信じてもらえなかったので、学校に行けないと言っている。しばらく休ませる。」と言い、電話を切られてしまった。放課後家庭を訪問したが、「子供が嫌がっているからうちには来ないでほしい。」と大声を出されて、帰るしかなかった。

その翌日もまたその生徒は欠席した。電話をかけてもつながらなかった。放課後家庭を訪問したが、明かりはついているのに誰も出てこなかった。

担任として毅然とした指導を行い、生徒は納得したはず、保護者にも理解を得たはずと考えていたのに、後で苦情になることがあります。しかも生徒の声ではなく、保護者の話だけでは、生徒の気持ちや状況は分かりません。

こちらから連絡を取ろうとしても断られる上、生徒も欠席したままではがちが明きません。何とかかわりをもてるように努力を続けるためには、学校としての組織的な対応や関係機関との連携が必要になります。

ヒント1 誤解を招くような対応はなかったか振り返る。

- きっかけとなったと思われる指導について、生活指導部などの協力を得て、客観的に振り返り、適切であったか、誤解を招く部分があったとすればどのあたりかなどについて検討します。
- 指導が妥当であったとしても、子供が「悪者扱いされた」と感じた心理的な事実については真摯に受け止めます。
- 今回の経緯について、当該の担任を責めるのではなく、解決のために管理職や他の教職員が担任を支える体制を整えます。
- 生徒が欠席する理由が、今回の指導とは直接関係ない可能性もありますが、そのことを前面に出すことは避けます。

ヒント2 校内の教職員や地域の方の協力を求める。

- ・ 担任が保護者や生徒との接点をもてないため、学年主任や部活動の顧問など当該生徒とかかわりのある教師が、電話をかけたり家庭を訪問したりするなど、他の教師で連絡が取れるかどうか確認します。
- ・ 少しでも反応があれば、その教師を手掛かりとして、保護者や生徒と話合いの場を設けることを提案します。
- ・ 学校関係者では連絡が取れない場合は、子ども家庭支援センターなどに相談し、様子を見ながらかかわりをもってもらうことを検討します。

ヒント3 子供とのかかわりを保つ取組みを継続する。

- ・ 担任からの連絡を保護者に断られても、担任として生徒への働き掛けを続ける必要があります。電話や家庭訪問、郵便受けに手紙を入れるなど、心配していることを伝えていきます。
- ・ 生徒の友人関係を通じて、負担のない範囲で協力してもらい、学校で心配していることを伝える方法もあります。

【学校の対応とその後の状況】

- ・ 部活動の顧問教諭が、留守番電話に「週末の練習試合の連絡のために自宅を訪問する。」というメッセージを入れた。予告した時刻に行くと、生徒が窓から顔を出していたので、声を掛けると本人が玄関に出てきた。
- ・ 顧問教諭が、学校の皆が心配していることを伝えると、本人は担任から悪者扱いをされたからではなく、言い争いの様子を周りの生徒が見ていたことなどから、学校に行きづらくなっていると話した。
- ・ 家族には本当のことが言えず、嘘をついてしまったことで、保護者が「そんなひどい学校には行かなくていい。」と怒ったので、余計に行けなくなっていると言う。
- ・ 試合にも出てほしいし、学校にも来てほしいので、何かよい方法はないか生徒に聞いてみると、黙り込んでしまった。
- ・ 学校として、この間の経緯についてお詫びに伺いたいという手紙を保護者に送り、予告した時刻に校長と担任とが自宅を訪問した。
- ・ 保護者と生徒に、学校に来られない状態になったことについてお詫びし、学校で待っていることを伝えたところ、保護者の納得が得られた。